

(8) 中国



中国地域では、景気は回復している。

- ・ 鉱工業生産は堅調に推移している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は改善している。

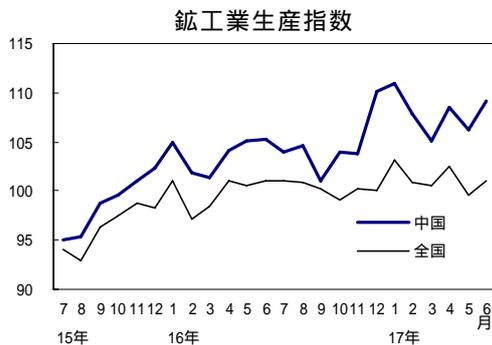
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 17 年 5 月)	今回 (平成 17 年 8 月)	
個人消費	おおむね横ばい	持ち直しの動きがみられる	
住宅建設	大幅に増加	おおむね横ばい	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は堅調に推移している。

化学は、稼働率が高いものの、定期修理が行われている工場もあるため減少している。鉄鋼は定期修理があった影響もあるものの、おおむね横ばいに推移している。輸送機械は、造船の集中起工が一段落したことや、輸出向け自動車の船待ちの影響もあって、生産が一時的に落ちているがおおむね堅調に推移している。一般機械は、ボイラーやタービンの生産が好調であるため増加している。電子部品・デバイスは、コンデンサをはじめとした家電用部品が好調であり、おおむね堅調に推移している。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成17年6月の中国は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

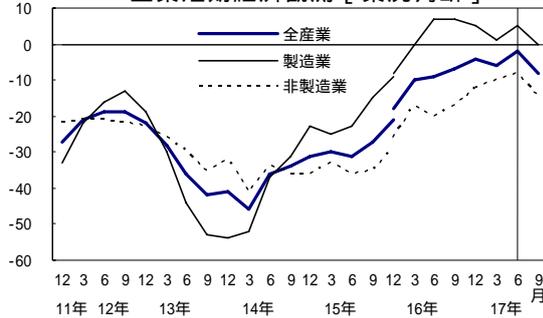
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
化学	17.6	0.7	3.8	2.6	0.1
鉄鋼	12.1	4.3	0.2	2.0	2.5
輸送機械	12.0	9.2	6.3	12.0	46.2
一般機械	10.4	16.8	21.2	11.8	5.2
電子部品・デバイス	7.6	15.8	0.6	0.7	-
鉱工業	100.0	2.0	0.0	3.8	3.5

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 4~6月期は速報値。
3. 電子部品・デバイスの在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

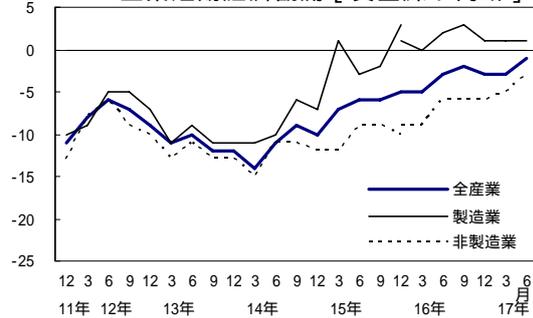
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。17年9月は予測。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。17年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

「北米を中心に海外向けの自社製品が好調に推移しているが、原材料の高騰による生産コストの悪化が続き、損益面では非常に厳しい(一般機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 17年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

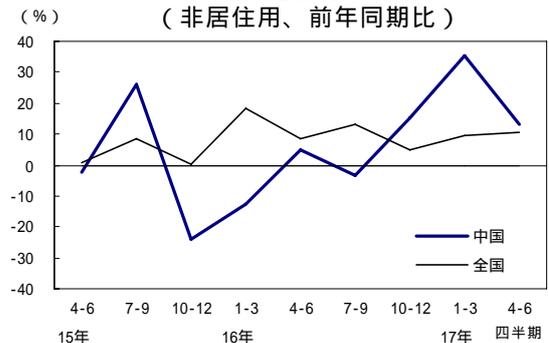
企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

(前年度比、%)

	16年度実績	17年度計画
全産業	14.0 (4.1)	2.4 (9.3)
製造業	13.5 (3.3)	6.6 (11.5)
非製造業	14.7 (5.3)	4.2 (5.5)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

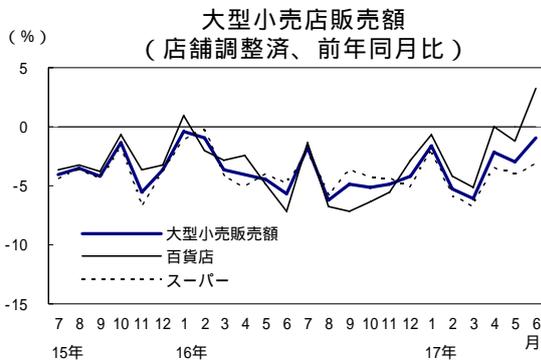
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、4月は天候に恵まれたことや閉店セールを行った店舗の影響がみられた。品目では初夏衣料が堅調に推移し、またアクセサリや旅行用品といった身の回り品も好調だったが食料品が落ち込んだため、全体ではおおむね横ばいに推移した。5月は、衣料品や身の回り品は好調だったものの、昨年改装効果の反動減や店舗の閉鎖の影響で全体では、前年を下回った。6月はクールビズの影響で夏物衣料が好調だったほか、中元セールが好調な出足となったため全体として、前年を上回った。日本百貨店協会によると中国地域の7月の売上高は、前年同月比で0.7%の減となっている。

スーパーは、レジャー関連の商品が好調な動きを見せたものの、その他の商品が低調な動きであったため前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

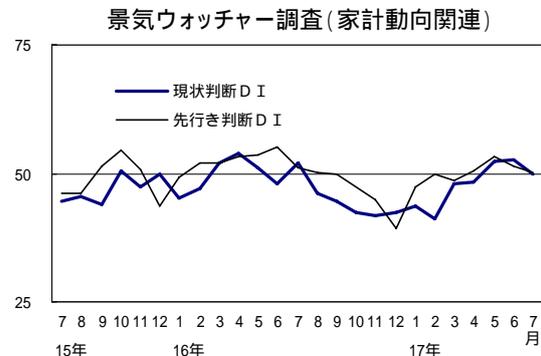
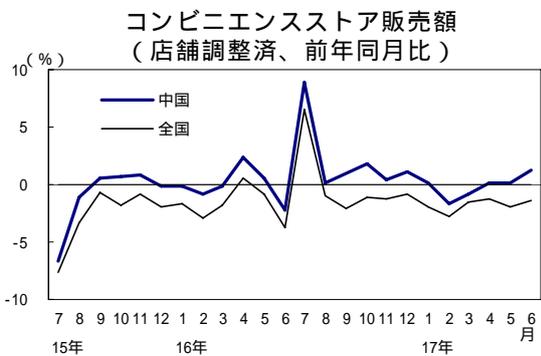
「あまり販売量にはつながらないが、先月位から以前に比べて客の表情というか、様子に少し明るさがみえてきたかなという感じがする(商店街)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	16年7-9月	10-12月	17年1-3月	4-6月
大型小売店	4.2	4.7	4.2	2.0
百貨店	4.7	4.7	3.2	0.6
スーパー	3.8	4.7	4.9	3.6
コンビニ	3.2	1.1	0.8	0.5
景気ウォッチャー	47.7	42.2	44.3	51.0

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

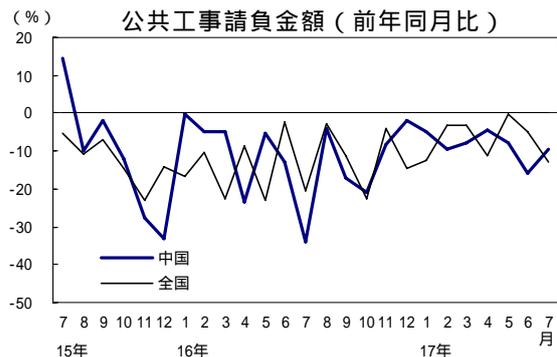
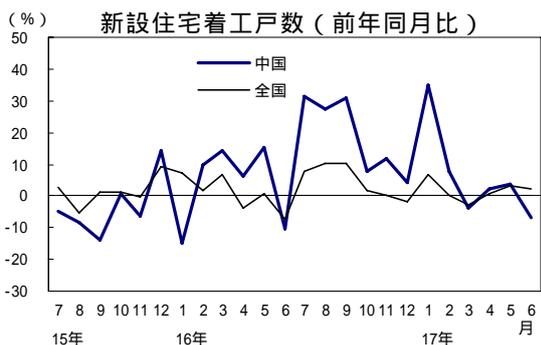
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。

貸家が前年を上回ったものの、持家が下回ったことから、全体では横ばいとなっている。

(3) 公共投資は17年度累計で見ると前年度を下回っている。

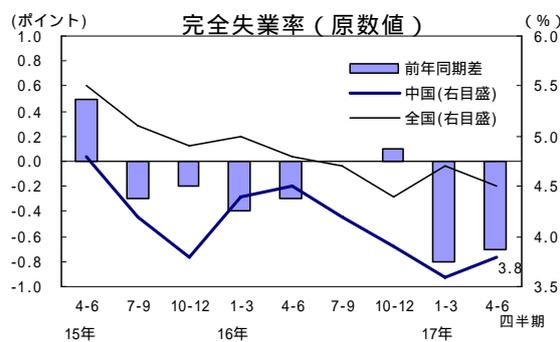
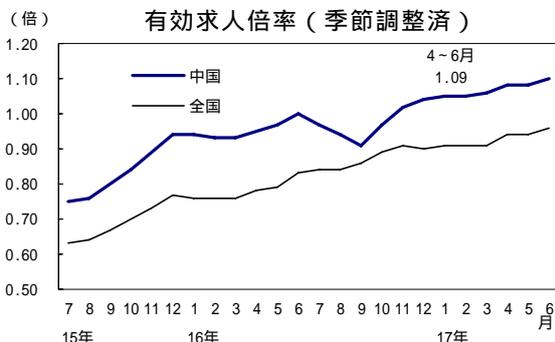


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月) [雇用関連 (現状)]

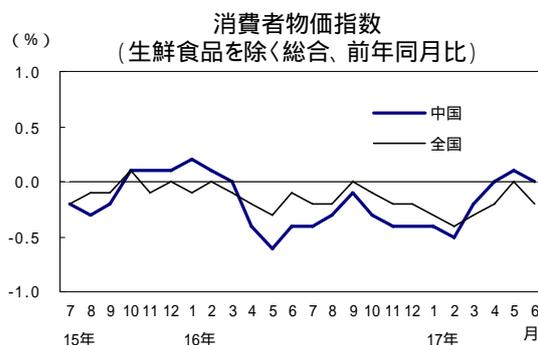
「来春高校卒業予定者の求人の提出が好調である。また、一般求人も前年同月に比べ増加傾向にある(職業安定所)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた一方で、「新規学卒者を含め、求人の提出状況が多少落ちついた感がある(職業安定所)」など「変わらない」とする回答もみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は上昇に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	16年7-9月	10-12月	17年1-3月	4-6月	17年7月
倒産件数	153	140	133	150	44
(前年比)	7.8	2.1	5.0	8.5	15.4
負債総額	404	322	418	377	204
(前年比)	26.9	2.7	25.1	9.7	2.6



景気ウォッチャー調査 (7月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・自動車関連は好調な受注が続き、またエアコンの生産はフル操業である(電気機械器具製造業)

<先行き>

・仕入れ価格の高騰が続き、仕方がないので売価を上げざるを得ず、8月より苦肉の策で売価アップする事になった。客の反応も怖いが仕方がない(一般レストラン)

景気ウォッチャー調査 (合計)

